

明けましておめでとうございます。今年は60年に一度の丙午（ひのえうま）。易経では「陽の気が極まる年」とされています。しかし、陽極まれば陰生ず。光が満ちるとき、影もまた濃くなる。変化の激しい時代だからこそ明暗を見極める目を持ちながら、大胆に前へ進みたいものです。今年も実り多き一年となりますように！

## 2026年 心新たに



2026年は午年（うまどし）です。一般的に知られているのは十二支の「午（うま）」ですが、より正確には2026年は「丙午（ひのえうま）」とされます。丙は、十干の3番目で「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。また、午は古くから人間と共に生きてきた動物。駿足を持ち、独立心が強く、また人を助けてくれる存在でもあります。そのため丙午の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になると考えられます。そんな年にしたいですね。

さて、我らがカープ。

2025年シーズンが終わり、2026年に向けた戦力再編の時期に入った。カープは、ドラフト会議で将来の主軸を見据えた野手を上位で指名するなど、野手の若返りに重点を置いた。しかし、一方で長年チームを支えてきた経験豊富なベテランや、外国人選手の契約保留名簿からの大量離脱が示唆されており、チームの陣容は本格的な過渡期を迎える。

外野手は、松山・中村・宇草といった実績のある選手がリストから外れ、ドラフトで平川を指名したものの、2名のマイナスと大きな穴が開いた。秋山・野間といった現有戦力はいるが、層の薄さは否めない。特に長打力のある外国人選手や、即戦力となる外野手の補強が緊急で必要である。

捕手は、ベテラン磯村が外れ、1名のマイナス。主力がいるとはいえ、経験豊富なバックアップ捕手の確保は急務だ。

外国人投手のドミンゲスがリストから外れたことで、外国人枠に大きな空きができた。特に救援陣の入れ替えは必須であり、即戦力となる強力な中継ぎ候補の外国人投手を複数名獲得することが、ブルペンを支える鍵となるだろう。外国人野手の補強と合わせて、外国人枠をフル活用した大胆な再構築が求められる。



長年にわたりチームを支えてきた田中・松山・上本といったベテランの大量離脱は、戦力ダウン以上にチームの精神的支柱を失うことを意味する。ドラフトで獲得した若手選手には大きな期待がかかるが、彼らが戦力として計算できるようになるまで、補強によって即座に穴埋めできるかどうかが2026年シーズンの順位を大きく左右する。

(記：上岡)

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。